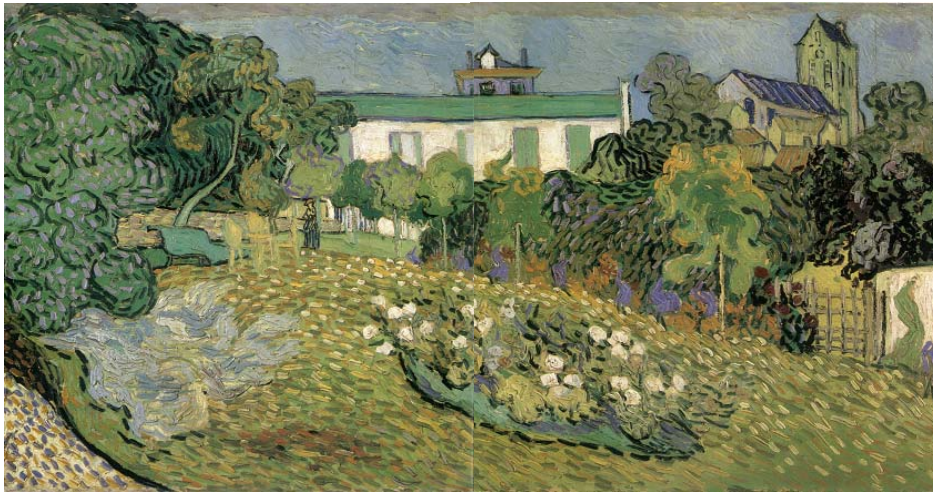


三条南ロータリークラブ週報

Sanjo Minami Rotary Club



2010. 8.30
2010. 9. 4
No.1965・6
No. 7・8



8/30クラブ・フォーラム
(IM準備打合せ)

9/4第4分区IM 合併号



会長挨拶

三条南ロータリークラブ 会長
大 溪 秀 夫

出席率	8/30 会員51名中44名	9/4会員51名中38名
先々週の出席率	8/9・・・89.36%	8/23・・・93.88%
先週の メイクアップ	8/24 三条北RCへ 星野健司君 丸山征夫君	
	8/28 会員維持・増強セミナー(上越)へ	
	馬場信彦君 荏澤喜一郎君	
	鈴木園彦君 吉井正孝君 馬場輝仁君	
	8/29 R財団ミーティング(三条)へ	
	野崎正明君 田代徳太郎君	
	8/31 田上あじさいRCへ 荏澤喜一郎君	
	9/1 巻RCへ 荏澤喜一郎君	
	9/2 燕RCへ 荏澤喜一郎君	

皆さん、こんにちは。

本日は、9月4日に開催されますIMの時の私の話の内容についてお話ししたいと思います。あらかじめその内容を会員の皆様に知っていただいた方がよいと思ったからです。

なお、荏澤アシスタントガバナー及び鈴木 IM 実行委員長の了解を得ております。

* 内容につきましては IM ページに



国際ロータリー会長 レイ・クリンギンスミス [アメリカ]
第2560地区ガバナー 東 山 昶 也 [高 田]
第4分区AG 荏澤喜一郎 [三条南]
会 長 大 溪 秀 夫
幹 事 野 崎 正 明
S A A 平 松 修 之

事務局 〒955-8666 三条市旭町2-5-10

三条信用金庫 本店内

TEL 0256-35-3477 FAX 0256-32-7095

E-mail info@sanjo-minami.jp

URL http://www.sanjo-minami.jp

野 崎 正 明 幹事

東山ガバナー事務所より 9月ロータリーレートのご案内

9月1日より 現行 1ドル 88円 → 86円

ニコニコボックス

NIKO-NIKO BOX

～ 8月30日 12,000円
今年度累計 108,000円～

大 溪 君 本日はIM準備打合せ会です。
よろしくお願いします。

野 崎 君 本日は「クラブ・フォーラム」です。
葦澤AG、鈴木IM実行委員長、よろしく
お願い致します。

葦 澤 君 お暑うございます。いよいよ9月4日のIM
開催の日が近づいて参りました。ご協力
お願い申し上げます。成功裏に終了しま
すように！！

鈴木(武)君 いよいよIMが今週の土曜日となりました。
皆様のご協力を・・・！！

吉田君 脚のムクミ取りに、田上の若竹『足もみ屋』
へ20分・3回やったら具合が良いようです。
強い利尿剤を使えないので苦労していま
す。

鈴木(囧)君 28日、上越での増強セミナーに参加して
きました。

**石山君、熊倉君、田中君、銅冶君、
馬場(一)君、若井君**
BOXに協力致します。

2010～11年度第4分区

INTERCITY MEETING

2010年9月4日(土)於:燕三条ワシントンホテル



PM 1:00	登録受付 開会点鐘 「国歌」「奉仕の理想」斉唱 ・「ロータリーの綱領」宣誓 握手タイム 歓迎の言葉 来賓・参加クラブ紹介と主催者挨拶	司会 荒澤 威彦 アシスタントガバナー 葦澤喜一郎 ソングリーダー 松崎 孝史 馬場 輝仁 ホストクラブ会長 大溪 秀夫 アシスタントガバナー 葦澤喜一郎
2:00	発表テーマ『熱き心で我がロータリークラブを語る』 趣旨説明 《クラブ発表 前半:6クラブ》 三条RC 三条東RC 燕RC 田上あじさいRC 加茂RC 巻RC ～ 休憩・コーヒータイム ～ 《クラブ発表 後半:5クラブ》 分水RC 三条北RC 見附RC 吉田RC 三条南RC	IM実行委員長 鈴木 武
3:20		
4:15	講評	パストガバナー 馬場 信彦
4:35	次年ホストクラブ紹介 次年ホストクラブ挨拶	見附RC会長 立川 幸則 アシスタントガバナー 葦澤喜一郎
4:45	閉会点鐘 ～ 休憩 ※分区内会員増強セミナー ～	
5:15	懇親会 開会の言葉 乾杯 アトラクション 「手に手つないで」斉唱	司会 三野輪明人 IM副実行委員長 吉井 正孝 パストガバナー 馬場 信彦 会員ご夫人によるデュオ
7:00	閉会の言葉	ホストクラブ 吉田 秀治



第4分区分区IMの開催にあたり

国際ロータリー第2560地区
ガバナー 東山 昕也



新年度も2ヶ月経過いたしましたがお変わりございませんか。
公式訪問における計画書を拝見させていただいておりますと各クラブの会長さんの「意気軒昂や高し」が感じられ嬉しい限りです。

本年度の第4分区分の都市連合会（Intercity Meeting）は、三条南ロータリークラブがホストになり、このたび荏澤喜一郎アシスタントガバナーの指導の下、「熱き心で我がロータリーを語る」をテーマに分区内11RCの多くのロータリアンのご参加をいただき、ここに開催され、心から感謝とお慶びを申し上げます。

各クラブが取り組んでいる、過去、現在、未来にわたる地域に対するロータリーの奉仕活動や会員の為になるクラブの管理、運営（クラブ奉仕に徹する）について各クラブの会長より発表していただき、今後の取り組む方向や実り多い奉仕プロジェクトを地元や海外の地域社会で実施され、活発な充実したクラブが築かれるならば、様々な課題やニーズに不寛容と言った問題も良識と親善を通じて乗り越えられると思います。

本日のIM開催が、より良いクラブと地域社会の未来へ向けてロータリアンの「友^{きずな}絆」を深め、地^ち域^くと^ともにロータリー情報や知識の交歓の場となることを願っております。

ロータリーの決議23-34の第一に

「ロータリーは利己と利他の調和を目的とする人生哲学である」と記されております。

この言葉は、人間の志すべき道を示しております。

「ロータリーは何をしてくれたか」の問いに

「もしロータリーのお陰で人生や人間に対して温かい見方をすることができるようになったとしたら、そしてもしも全てに対して広い心を持ち、他人の長所を認め、人生の喜びと美しさを自分にも他人にも施す人と付き合うことができるならば、ロータリーに期待している全てを我々に与えてくれることになります。」

私たちが常に口にしている奉仕の理想は「人の身になって考え、人のお役に立とうとする心」であります。ロータリーの素晴らしさを知るにはロータリーを理解することであるとされております。

ロータリーとは何ですかと聞かれて、百人百様の返事があると思いますが、一口に言って私は「自己研鑽と奉仕の団体」と答えます。「入りて学び、出て奉仕せよ」の心掛けで、例会で親睦を深め、情報を交換し、切磋琢磨し社会に出て奉仕を実践する。ロータリーは知識だけでなく実践する場であります。

ポール・ハリスの言葉に

私たちの目的は何ですか。

学ぶことです。

何を学ぶのですか。

人生を学ぶのです。

人生から何を学ぶのですか。

人生から学ぶのはただ一つのことです。

人生を送る中で、いかに「エゴ」と決別するかを学びます。

「ロータリーは、“自分づくり、人づくり”の学びと実践であります。」

ロータリーを楽しみましょう。

歓迎の言葉

ホストクラブ会長
大溪 秀夫

第2560地区第4分区の皆様、ようこそIMにおいでくださいました。ホストクラブを代表して、心からお礼申し上げます。

皆様すでにご承知のとおり、IMはAG主催の「研修と親睦の場」でございます。今年度、東山ガバナーが提唱される「友絆」…地域とともに にこだわりますと、分区最小

の単位が、このIMの集いかと思われます。

近隣第4分区のロータリアン同士が、この機会に知り合い、友情が生まれれば、レイ・クリングスミスRI会長の方針「ロータリアン以外の人に、ロータリーのことをよく知ってもらう」ことにも繋がって行くものと確信します。

そして、今回のIMのテーマは『熱き心で我がロータリークラブを語る』であります。各クラブの歴史や伝統に加え、クラブ・職業・社会・国際・新世代の五大奉仕の他、会員増強、CLPなどの諸課題について、11クラブそれぞれの特色が語られることと思います。

お互いのクラブの活動を知り、理解と認識を深め、それを持ち帰ることで自クラブ発展の「糧」とし、本日のIMが、有意義な一日となりますよう祈念し、ご挨拶いたします。

ご挨拶

第4分区アシスタントガバナー
荳澤 喜一郎

今年のRIのテーマは、「地域を育み、大陸をつなぐ」。地区のテーマは、「友絆」…地域とともに であります。このテーマのもと、それぞれクラブ運営や諸事業にご活躍の様子に、感謝と敬意を表するものであります。

本年度IMテーマは、『熱き心で我がロータリークラブを語る』としました。ご自分のクラブについて想いを熱く語っていただき、他クラブの活動を知り理解を深め、

「刺激と自己研鑽」の機会となれば幸いです。また、講評に馬場信彦パストガバナーをお願いいたしました。IMは、近隣都市のクラブが集って開催するロータリーメンバーの会合です。その主目的は、知識と情報交換、そして親睦の醸成です。「決議」や「決定」など、固い催しではありません。ご参会の会員各位には、この趣旨をご理解いただき、本日の会合が有意義な集いになりますよう、最後までご協力をお願い申し上げます。

なお、お手元の「ROTARY mini DIGEST」は、第2560地区AG会監修のもと、南クラブロータリー情報委員会が編纂を重ね、まとめあげた「ロータリーの手引書」です。皆様のロータリー活動の一助となることを願いお届け致します。

来賓・参加クラブ紹介

【来 賓】 第2560地区パストガバナー 中條 耕二 様
第2560地区パストガバナー 馬場 信彦 様

【参加クラブ】

	7/1会員数	登録者数	出席者数		7/1会員数	登録者数	出席者数
三条	53	27	25	三条北	70	35	30
燕	28	13	13	巻	15	9	9
加茂	37	18	18	田上あじさい	8	5	5
分水	33	17	17	三条東	41	20	20
見附	17	6	6	三条南	51	51	38
吉田	40	15	15	合計	393	216	196

「熱き心で我がロータリークラブを語る」

～第4分区11クラブそれぞれの活動～



「我がロータリークラブの心」
三条 RC 樺山 仁 会長



「一期一会を大切に」
三条東 RC 菅家 敏彦 会長



「こころをそろえる」
燕 RC 小田島 藤吉 会長



「私とロータリー」
田上あじさい RC 佐野 一雄 会長



「派遣社員のつもりが会長に」
加茂 RC 金澤 理久夫 会長



「ジンクスを超えて」
巻 RC 平岡 一郎 会長



「ロータリー原点を見つめて」
分水 RC 八子 英雄 会長



「職業奉仕を通して会員の友絆を深めよう」
三条北 RC 小林 繁男 会長



「ロータリーから学んだもの」
見附 RC 立川 幸則 会長



「地域に根を下ろしたロータリー活動」
吉田 RC 深澤 利陸 会長

「ロータリーについて思うこと」

三条南ロータリークラブ
大 溪 秀 夫 会長

皆さん、こんにちは。私で最後ですのもう少しお付き合い願います。

先ず、三条南クラブの歴史、どういう活動をしてきたかについてお話ししたいと思います。

我が三条南クラブは 1968 年（昭和 43 年）6 月 20 日に金子六郎初代会長、田中正佐久初代幹事の下、26 名で発足しております。スポンサークラブは三条クラブであり、第 2560 地区において 28 番目に創立されました。以来私で 43 代目となります。この間、クラブは着実に成長し、第 30 代坪井正康会長時代（1997～98 年度）には会員数 80 名となり、2008 年には、馬場信彦ガバナーを輩出するに至っております。



この間、社会奉仕活動として、発足時に赤い羽根募金に全会員で街頭に立つことから始まり、節目の創立 10 周年には市民センターにピアノを寄贈、20 周年には大崎山公園に“ジャンボ滑り台”、30 周年にはディサービス用リフトカー、40 周年にはマイクロバスを寄贈しています。その間にも文化講演会や緑化運動の一環として、三条保内公園、槻の森総合運動公園に植樹をしています。

また、国際奉仕活動においては、青少年交換の受入、派遣にも力を入れ、1971 年 7 月、アメリカからの夏期交換学生 12 名を例会に迎えたことに始まり、夏期及び一年交換学生の派遣や受入にも熱心であります。また、ロータリー財団国際親善奨学生は 1993 年から 3 名が留学しており、米山奨学生も 2003 年から 3 名受け入れております。それと、国際研修旅行も会員にとっては楽しみな行事の一つであり、毎年行っています。

南クラブの一番の特色で、誇るべきところは、何と言っても、創立以来出席率が 90% を割ったことが一度もないことであります（平均 93%）。このことについては、歴代ガバナーが公式訪問で必ず触れられ、お褒めの言葉をいただいております。勿論、例会に関しては、SAA、親睦委員は連絡を蜜に取り合い、時間通りに始まり、スムーズに例会が進み、時間内に終了します。非常にアットホームで、ホームクラブの出席率が良いことは私達南クラブの特徴です。これには、毎月例会場の席替えが行われますが、新入会員には 2～3 ヶ月、スポンサーと一緒にテーブルに着くとか、早い時期に夫婦同伴のオリエンテーションを設け、ロータリー情報委員会が研修をするなど、出席し易いようにしております。奥様にロータリーを説明することは、出席率向上に大いに役立つことだと思います。これは余談になりますが、何かの会合の時に他のロータリアンから、「何で南ロータリーは出席率が良いのですか」と尋ねられました。私が、「月曜日は祝日で休みの時が多いからですよ」と言いましたら、「なるほど、そうですか」と真顔で答えられましたので、「いえいえ、今のは冗談で、南クラブの会員の皆さんは基本的に真面目な人達が多いからでしょう」と訂正しておきました。

次に私達のクラブで継続してやっていることは、全会員ポール・ハリス・フェロー計画であります。これは、1992 年から実施していることで、財団の友（ポール・ハリス準フェロー）に全員が参加し、一人当たり 100 ドル以上を毎年送金することにしました。2000 年 11 月に 10 年目となり、32 名がポール・ハリス・フェロー、11 名がマルチプル・フェローとなっています。その後も継続し、現在、39 名のポール・ハリス・フェロー、37 名のマルチプル・フェローの実績となっております。また、米山奨学に関しても同様に 1996 年から会員全員が「米山功労者」になるべく、毎年会員一人 10,000 円を送金、その他 BOX 協力などで地区目標額達成も果たしています。

また、当南クラブには、独自のロータリーマニュアルがあります。第 2560 地区にもロータリアン必携の“わかりやすいロータリー”がありますが、当クラブでは 1994 年、当時のロータリー情報委員会が中心となり、『ロータリーミニダイジェスト』を発行し、会員の研修に役立てています。これは胸のポケットに入る優れものと思います。情勢の変化に対応し、今年で 4 回目の改訂となります。今回、この IM 開催に際しまして『ミニダイジェスト』を皆様にお配りさせていただく機会を頂戴しました。ご活用いただければ幸いです。

今まで良い所ばかり話してきましたので、次は当クラブが抱える悩み、或いは足りないところについてお話ししたいと思います。

先ず、何といたっても会員増強の必要性です。今年の地区協議会で、日本のロータリークラブは会員数が 13 万人（1998 年）の時代から漸減し、9 万 2 千人を下回っている状況との報告がありました。現時点では 8 万人台とのことであります。当クラブでも 1998 年から会員数が減少してきています。これはバブル崩壊や、水害の影響もありましたが、この数年来、会員増強委員会の頭痛の種であります。私の年度になって会員数は 51 名となりました（ちなみに昨年度は 55 名でした）。会員の減少はクラブの平均年齢の上昇（当クラブ平均年齢：61.8 歳）、硬直化、マンネリ化に陥る危険性があり、クラブの活性化が失われていく要因となります。以前“ロータリーの友”を読んでいた時に印象に残っている言葉（文章）があります。「ロータリーには三大義務があり、会費納入・例会出席そして“ロータリーの友”の購読。それに加えて、出来るなら、自分がロータリーを退会するまでに 1～2 人の人を入会させること」とありました。なるほど、これなら会員の減少は無いと思いますが、そう簡単にいかないところが難しいところでもあります。昨年度から長期計画（3 ヶ年）という言葉がロータリーに出て参りました。性急にならず、腰を据えてじっくりと練りなさいということだと思います。泉は枯れたとしても、地下水は無くなりません。また、木の年輪を見ても、太く立派に育ったところもあれば、細いところもあります。しかし、着実に成長し、幹を形成し、真っ直ぐに育っていきます。ロータリーの原点（友情・奉仕）を見失うことさえなければよいと思います。幸い私達のクラブには、有望な若手がまだまだ在籍しております。そして今年は会長経験者に、入会順に月に 1 回（第 4 例会）卓話をお願いしました。クラブ創立時からの貴重なお話が聞けるものと思います。第 4 分区の皆さん、どうぞ三条南クラブにメークアップにおいで下さい。

そして当クラブとして、これからは対外的な事業、特に社会奉仕活動として継続的な事業をひとつ持っていきたいのではと考えております。最初に触れましたが、緑化運動の植樹も 3～4 年で途切れていきます。また、昨年度のロータリー財団地区補助金からの AED（自動体外式除細動器）の小学校への寄贈も、今年度で終了します。長期的視野に立って模索して行きたいと思います。

最後に、私がロータリーに入って感じたことを述べてみたいと思います。ロータリーの良い所は、ロータリアン同士の友情もさることながら、時間に正確であることです。また、NPO を代表とするボランティア団体とは異なり、職業奉仕をする人々の集まりであること。そして、完全なる横社会であり、縦社会からは得られないことを習得できることです。勿論、会員同士、親子ほど年の違う方もおられますが、それはやはり、礼儀を重んじる『長幼の序』が保たれております。ロータリーではこれを“徳の支配”と言うそうです。一般の社会においてもそうですが、何事においても最初から「名人」、「達人」と呼ばれる人は存在しません。その人の努力・精進の賜であります。何事も最初の一步が大事で“継続は力なり”の言葉通り、自分の信じる道を一步一步あゆむことが大切なことと思います。また、人として先輩から目をかけられ、後輩から慕われることに勝る喜びはないと思います。自分がこれまでに教えられたことや学んだことを、次世代の人達に伝えていきたいと思う、今日この頃であります。

懇親会



ロータリーの友

9月号紹介



□ ロータリーの友 9月号についてご紹介いたします。

- 1 横組みページから R1会長のメッセージの紹介 P1
(1) クラブがロータリーの最も大きな資産です。
(2) ロータリーコーディネーターの創設について
- 2 子供の命、水、衛生をめぐる問題 P24~25
(財)日本ユニセフ協会団体 団体・組織事業部 菊川 穰
ユニセフのアプローチ
(1) 3.6秒に1人の子供が死亡 (2) 汚れた水すら手に入らない
(3) トイレや手洗いの習慣の無い地域も
- 3 ロータリー米山記念事業の基礎知識 P26~27
全ての寄付金は税制優遇が受けられる
- 4 ハイチカリそめの回復力
200年間で最悪の自然災害。
20万人以上死亡、100万人以上が家を失う 西半球一の最貧国
困難をはね返すという課題において、世界に重要な何かを提供しました。
- 5 縦組みページから 世界の水問題は日本の水問題 P2~6
諏訪東京理科大学経営情報学部教授 天野 輝芳
(1) 地球の危機は水の危機となって現れる
a これから先10数年の水の需要は6割増加
b 水は全ての生物にとって基本財である
c 毎年180万人の乳幼児が汚染された水が原因で死亡
d 水とエネルギー 食料の問題は表裏一体
水不足 穀物の高騰 食料の輸入=水の輸入
(2) リスクをチャンス(収入)に
a 汚染源を資源として再利用
政府の「水の安全保障戦略機構」
産官学の専門家で構成 企業へ
b 基本的な衛生設備を利用できない人の割合を2015年まで
半減の目標 赤道周辺 中東 インド 中国
(3) 水メジャーに握られた世界の水市場
a 60~100兆円
b 日本は海水淡水化技術世界の60%
c 水ビジネスは知恵比べの時代
コンサルタント能力が試される
日本に海外の資本が入ってくるかも？

以上、興味深い記事をご紹介しました。皆さんもどうぞ一読下さい。

クラブ会報委員会 馬場 一敏

Birthday



誕生日

9月のお祝い

会員誕生	2 日 馬場輝仁君	10 日 荏澤喜一郎君	13 日 広岡豊樹君
	17 日 吉井正孝君	18 日 銅冶康之君	
夫人誕生	4 日 松崎 恵(孝史)さん	5 日 佐藤千枝(秀夫)さん	
	12 日 佐々木朋子(常行)さん	16 日 丸山光子(徹夫)さん	
	19 日 銅冶なをみ(康之)さん	25 日 荏澤トシ(喜一郎)さん	
	27 日 齋藤千代子(嘉一)さん	29 日 吉井敏子(正孝)さん	
結婚記念	23 日 星野健司君・敏江さん		



＊ おめでとうございます ＊

表紙について



ヴィンセント・ファン・ゴッホ
(1853-1890)

■「ドービニーの庭」1890年

ひろしま美術館

ロータリーの友 1987 年 10 月号表紙より

三條南ロータリークラブ週報

2010. 8.30 9. 4

No.1965,1966 No. 7,8